1961年1月16日第3種郵便物認可　1997年3月1日　第426号（毎月1回1日発行1部50円）
（加盟団体関係者の講読料については、負担金に含まれている。）

全仏

仏暦2540年3月
（1997年）

NO.426

神戸市仏教連合会主催「阪神・淡路大震災犠牲者三回忌法要」
（関連記事6～7頁）

財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION

理事会・評議員会開催

財団創立四〇周年記念事業案を承認

赤坂プリンスホテルで開催された理事会、評議員会

本会の理事会・評議員会が、去る一月二十九日午後三時から、東京の赤坂プリンス・ホテルで開催された。会議では、平成九年度の事業計画案や歳入・歳出予算案、本年秋に予定されている財団創立四〇周年記念事業の計画案等が審議された。

評議員会

議長に中村啓識師、議事録署名人に、壽山良知、逸見道郎の両師を選んで、議事に入った。

議案第一号「理事の変更について」

中村議長より上程。荒川事務総長が説明、原案通り承認された。

議案第二号「平成九年度事業計画（案）について意見を求める件」

中村議長より上程。荒川事務総長が平成九年度事業計画案を朗読。原案賛成の意見が表明された。

議案第三号「平成九年度歳入歳出予算（案）について意見を求める件」

中村議長より上程。鷲尾財務部長が、予算案の詳細を説明。原案賛成の意見が表明された。

議案第四号「財団創立四〇周年記念事業並びに第三十七回全日本仏教徒会議について意見を求める件」

中村議長より上程。荒川事務総長及び鷲尾財務部長が記念事業の計画案を説明。質疑応答の後、原案賛成の意見が表明された。

理事会

白幡理事長を議長に、議事録署名人に、永井祥文、白川謙敬の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「常務理事の変更について」

白幡議長より上程。荒川事務総長が説明、原案通り承認された。

議案第二号「平成九年度事業計画（案）について承認を求める件」

白幡議長より上程。荒川事務総長が平成九年度事業計画案を朗読。原案通り承認された。

議案第三号「平成九年度歳入歳出予算（案）について承認を求める件」

白幡議長より上程。鷲尾財務部長が、予算案の詳細を説明。原案通り承認された。

議案第四号「財団創立四〇周年記念事業並

懇親会で挨拶する高井会長（左）、白幡理事長

びに第三十七回全日本仏教徒会議について承認を求める件」

白幡議長より上程。荒川事務総長及び鷲尾財務部長が記念事業の計画案を説明。質疑応答の後、原案通り承認された。

報告事項

①ルンビニー園マヤ堂修復事業の現況について

②各種委員会委員の変更について

③事務総局各部報告

議案に関する審議が終了した後、右記の理事会・評議員会に共通する報告が、事務総局の各部長（第一号については、川井ルンビニー委員長）より行われた。

懇親会

午後六時から、同じ赤坂プリンス・ホテルを会場に恒例の新年懇親会が開催された。高井隆秀会長、白幡憲佑理事長の挨拶につづいて、来賓の加藤紘一自由民主党幹事長、ルドラ・クマール・ネパール大使代理、亀谷荘司日本宗教連盟理事長、上田卓三部落解放同盟委員長、島村宜伸自由民主党広報本部長から次々に祝辞が述べられた。その後、田中日淳副会長の発声で乾杯を行い、しばしの間、約三百人の出席者による、和やかな懇談がつづいた。

ご寄付御礼

本会はルンビニー園のマヤ堂修復事業を推進していますが、先般これに対し新たに次のような寄付が寄せられました。各位には衷心より御礼申しあげます。

東京ブディストクラブ様　一、金二十万円

蓮生善隆様（元善通寺派管長）　一、金五百万円

山田一眞様（高野山真言宗金剛院住職）　一、金三十万円

仏旗・バッチ頒布御案内

大仏旗　たて一四〇cm×よこ二一〇cm　三二、〇〇〇円

中仏旗　たて九〇cm×よこ一三五cm　一八、〇〇〇円

小仏旗　たて七〇cm×よこ一〇〇cm　九、三〇〇円

手旗　たて三五cm×よこ五〇cm　八、〇〇〇円

法輪旗　たて九〇cm×よこ一三五cm　七、四〇〇円

仏旗バッチ　二cm×四・五cm　五〇〇円

法輪バッチ　直径一cm　一、〇〇〇円

お申し込み

全日本仏教会財務部

電話　〇三―三四三七―九二七五

FAX　〇三―三四三七―三二六〇

講演

いじめ問題と仏教者の課題

曹洞宗
福泉寺住職
無着成恭

一月二十九日に赤坂プリンスホテルで行われた新年懇親会に先立ち、「いじめ問題と仏教者の課題」をテーマに無着成恭師（曹洞宗、福泉寺住職）の講演が行われた。師は約一時間に亘り、時折ユーモアを交えながら、自身の教育論を述べられた。以下講演の要旨をご紹介する。

（文責・社会部）

※　※　※

いじめ問題と仏教者の課題について、お話ししたいと思います。

先日、ラジオの子供電話相談室に回答者として出たのですけれど、「ペルーの日本大使公邸に多くの人が人質にとられていて、キリスト教の神父さんがゲリラの説得に当たっていますが、日本でこうした事件があった場合、仏教のお坊さんはゲリラを説得に行くのでしょうか。」という質問がありました。もちろん、日本ではそうはならないでしょうね。

日本以外の国であるならば、カトリックの神父さんとかは精神的な権威者ですけど、日本ではそうではないですね。こうしたことが実は、いじめの問題とも鋭く関わっているのではないかと私は思っているのです。

いじめの問題に移りますが、いじめは昔からあったんです。ただ、昔の子供には縦割りの生活と横割りの生活がきちんとあって、同じ歳の子供たちで、けんかやいじめがあった時、「おい、そのへんでやめとけ。」と上級生が言って止めてくれるところがありました。

ところが現代は点数主義を競争原理とする社会ですから、結局横割りの競争の関係だけで、縦割りの関係は完全になくなってしまっている。これが、いじめを陰湿なものにしているといえると思うんです。

それから教育制度なんですけれども、学校教育というものと、徒弟制度による教育というものの二つがうまく噛み合っているときにはいじめの問題はさほど問題にならないんです。なぜならば、学校制度の教育は全員に百点を上げておいてそこから点数を引いていく減点法でしょ。ところが徒弟制度による教育は、例えば「おう、おまえは雑巾じゃぶじゃぶ洗ってきゅっと絞って、板の間拭くことが出来るようになったか。えらい、えらい。」という教育であって、加点法で行く訳ですね。

いじめるということは、いじめられる人が、自分が人と違うのだから、いじめられても仕方ない条件を持っているのだなと思い込まされていくのが、第一段階なんですね。だんだんと、自分がいじめられても仕方ないという精神的な圧迫を加えられることによって孤立してしまう。そうして、反抗する手だてがふさがれていってしまって、精神の内面まで、いじめる側から支配されていくという条件が現在のいじめの構造だと思うんです。

私たちがお坊さんとして、いじめられた人間の心をどのように癒していこうかと考えるとするならば、まず、いじめられる子供たちは、実際には何もできないのに、頭の中だけで、自分は何でもできる気でいる状態を理解しないといけないと思います。

無着成恭師

大人が今の子供に拭き掃除を頼むとしたら、汲むだとか、すすぐだとか、絞るということを、まず教えなかったら、拭くという所まで行かないわけですね。

そうしたら、少なくともお寺さんでは、拭き掃除ができる状況を整えてあげて、そういう子供を呼んで、掃除の仕方を教えたら、子供たちが床を拭くということの中から、自分を発見し、生き生きしてよみがえることが出来る可能性はあるわけです。

こと教育に関して言うならば、先進国というのは少なくとも私立の学校が主流なわけです。子供の教育というものは、両親に責任があるのであって、国家からは何の関係もないという考え方なわけですね。

日本でも江戸時代までは、寺子屋が教育の中心で、そこから立派な人間がたくさん出たんです。そこでは親が判断して、先生を選べた。ところがそうした教育では日本の国家は後進国で、先進国にいつまでたっても追いつくことができないので、教育というものを国が統制して、つまり国家が先進国に追いつくために、何を教えたらよいかということを考えてきたわけです。

例えば、今、満年齢で数えるということは、国家の制度の上からあるわけですけれど、お釈迦さまは『父母恩重経』で、お母さんのお腹の中で一年近く経って生まれるのだから、生まれたときはすでに一歳なんだよ、だから生まれるまで、母親のお腹の中でいのちというものがどのように育まれたのかということを良く考えてみなさいと説いています。

つまりお釈迦さまは数え年を強調しているのです。

私たち仏教者が数え年の意味を子供たちにちゃんと教えることで、単に制度の上で都合が良いため使われている満年齢のからくりを理解してもらい、子供たちに人間とは何かということに目覚めてもらう。ここからいじめから解放されていく条件を持つこともできると思います。

最後になりますが、仏教者の課題とは何なのかという問題です。それは人間としての生き方の問題です。生き方とは別の言葉で言えば、道徳とか、倫理という問題です。だから政治家の倫理観や道徳観が問われると言うけれども、道徳とか倫理というのは、実はすべて宗教をベースとしているわけですね。

そこで私が言いたいのは、宗教が違えば道徳も違うということです。道徳教育というのは宗教教育の中に組み込まれているんだ。つまり道徳を教えたかったら宗教を知らなかったら仕方がない。ところが宗教を教えないで道徳教育ばかりを日本の学校ではやっているわけです。

電車で席を譲るということによって、自分自身が救われる。救われるというのはどういうことかというと、自分の存在している理由が見えてくる。本来の自己が見えてくる。本来の自己とは何かといったら、それは、人のためにしていたことが、実は自分のためだったんだと見えることでしょうね。

こういう考え方をどこかでだれかがきっちりと子どもたちに教えていかないといけないと私は考えます。そうしないと日本はやがて滅びざるを得ないだろうという感じが、今しています。

阪神・淡路大震災三回忌追悼行事

六千四百二十四人の犠牲者を出した阪神淡路大震災から二年という歳月が経過した。現地では震災のあった一月十七日を中心に、被災地をはじめ各所で各教団、ボランティア団体による三回忌法要などの行事が行われた。

震災三回忌法要会場の真光寺

本堂内での追悼法要

十七日午前十一時より、神戸市兵庫区の真光寺では、神戸市仏教連合会主催、(社)神戸青年仏教徒会共催、兵庫県仏教会、全日本仏教会、京都仏教クラブらの協賛による「阪神淡路大震災犠牲者三回忌法要」が営まれた。本会からは荒川事務総長、渡邊総務部次長が参列し、追悼の献花を行った。

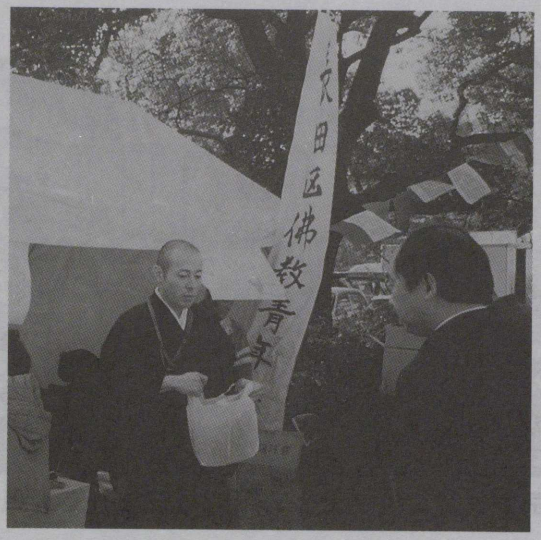
神戸市仏教連合会の衣笠諦道会長は挨拶の中で、二年前からの各種団体やボランティアの温かい支援への感謝の言葉を述べ、続いて、亡くなった多くの人々の冥福を祈り、物心両面の復興を願う気持ちを述べた。

夕刻には、犠牲者の名を記した六千本余りのローソクが灯され、夕闇の中訪れた多くの参列者のもと、しめやかに追悼が行われた。

また、一月十五日から二十二日にかけて、本会加盟各教団、関係団体による追悼行事が各所で行われた。以下、その一部をご紹介する。

十五日の長田区御菅地区合同慰霊祭には曹洞宗国際ボランティア会、全国曹洞宗青年会が協力し法要を行った。

十六日、神戸市中央区の神戸文化ホールでは、浄土宗が兵庫教区と共催による三回忌法要を厳修。同日、須磨区の須磨寺を会場に、全日本仏教青年会がバザー、サッカー選手のサイン会などの催しを含む、市民参加による



真光寺境内での青年僧による茶菓接待

手作りによる三回忌法要を行った。この全日仏青の行事には、全日本仏教婦人連盟も協賛し、会員が参加して活動を行った。

十七日、天台宗は三回忌法要を兵庫教区一隅会との共催で神戸沖の船上で営み、犠牲者の冥福を海上から祈念した。また日蓮宗兵庫県東部宗務所は、三回忌法要を神戸市灘区灘区民ホールで修行。これに先立ち身延山布教隊、伝道隊の青年僧が市内を行脚し、法要への参列を市民に呼びかけた。また同日、高野山真言宗総本山の金剛峯寺、真言宗智山派総本山の智積院などでも、管長猊下導師による三回忌法要が厳修された。

真光寺書院での墨跡展

十九日、震災で最も多くの寺院被害を受けた浄土真宗本願寺派は、震災の中工事が進められ一昨年竣工した、本派神戸別院で追悼法要を行った。

二十二日には、神戸市中央区の神戸文化ホールで、真宗大谷派大阪教区および山陽教区主催による追悼法要が行われた。法要の中では、地元市民が震災の体験を語り、参加者は今後の自立への決意を確認していた。

また、こうした教団、団体による三回忌法要のほか、各地の仮設住宅の近隣では、ボランティア団体による三回忌の諸行事が行われ、多くの人々が犠牲者の冥福を祈った。

花まつりポスター

本会ではご覧のポスターを頒布しております。明るい春の野に静かに立って、天と地を指すお釈迦さまのお姿は、見る人のこころに安らぎを与えることと思います。地域仏教会、幼稚園・保育園などで広くご利用ください。

◎タテ75cm×ヨコ52cm　　◎多色刷
◎1枚　100円（送料実費ご負担ください）
◎なるべく早目にお申し込みください。間際のお申し込みですと4月8日に間に合わないことがあります。

全日本仏教会 花まつりポスター係

記念事業運営委員会開催

去る二月四日午後三時から、「財団創立四〇周年記念事業並びに第三十七回全日本仏教徒会議」の第一回運営委員会が、京都グランド・ホテルで開催された。

三帰依文唱和、理事長挨拶につづいて、正副委員長の選出に移り、委員長に小林照宥師（真言宗智山派）、副委員長に白川謙敬（東京都仏教連合会）、市村隆玄（兵庫県仏教会）の両師を選び、議事に入った。

最初に、荒川事務総長、鷲尾財務部長が、記念事業に関する期日、場所、内容等の事務局案を説明、出席者からは活発な意見が出された。協議は約二時間に及び、二月中を目処に、事務局でより詳細な計画案を作り、次の運営委員会へ諮ることになった。

委員会終了後、記者会見が行われ、白幡理事長から、この記念事業の概要が発表された。

京都グランドホテルで開催された運営委員会

事務局録事

—一月—

八日　局内会議
九日　法律相談室
十四日　局内会議
十七日　神戸市仏教会震災三回忌法要参列
十八日　自民党大会出席
二十日　埼玉県仏教会新年会出席
二十三日　日宗連理事会
二十七日　局内会議
二十九日　理事会
評議員会
新年懇親会
三十一日　局内会議

—二月—

四日　記念事業運営委員会
七日　局内会議
文化庁調査委員会出席
十三日　法律相談室
十七日　局内会議
十八日　総持寺副貫首本山葬参列
二十二日　天台座主本葬儀参列
二十四日　局内会議
二十八日　法律相談室

哀悼

小原泰寿師（元全仏評議員）
十二月二十六日、七十四歳で遷化
茨城県仏教会元会長

上田良準師（全仏副会長）
十二月二十八日、七十九歳で遷化
西山浄土宗前管長、総本山光明寺前法主

梅山圓了師
一月二十日、九十三歳で遷化
天台座主

野口浩堂師（元全仏常務理事）
一月二十日、八十三歳で遷化
臨済宗妙心寺派元宗務総長

『一九九七年版全仏手帳』は完売いたしました。ご協賛を御礼申しあげます。尚、付録「加盟宗派名録」九頁、浄土宗本願寺派は浄土真宗本願寺派の誤りです。謹んで訂正いたしますと共に、お詫び申しあげます。

一九九七年三月一日発行
三月号　第四二六号
発行人　荒川正憲　発行所　財団法人　全日本仏教会
〒一〇五　東京都港区芝公園四—七—四
電話〇三(三四三七)九二七五